

母子通園施設の役割と重要性

放課後等デイサービスのスタッフから、コミュニケーションが上手く取れない母親に関連して、次のようなメール（抜粋）をいただき、発達支援事業所（旧：心身障害児通園施設←母子通園施設←マザーズ・ホーム）の役割を改めて再認識した。

【 小さい時から保育園に預け、保育園で育つ中で障害がわかったという状況で、母子通園に通ったことのないお母様ですし、なかなか胸の内を話せていない印象は受けます。

保育園で障害児だとわかった親へのアプローチって、保育士の力量にもよりますものね。

そういうお母様を今、目の前にし、やっぱり、母子通園施設って、とっても大事ですよ

ね。
その時期に、自分の胸の内を話し、聞いてもらって、「それでもいいんだ！」って思って、「では、目の前のこどもにどうすればいいのか」を一緒に考えてくれる人が母子通園ではいつも直ぐ側にいるんですから。

その経験があるか、ないかでも、お母様の心理的変化ってとっても大きいと思います。

今は、理解者だと思ってもらえるような係わり合いを短い時間の送迎時に積み重ねていくしかないと思っています。 】

幼児期の親子が通う母子通園施設では、まずは母親に「孤独でない、孤立していない」と感じさせることが何より大事かと思う。

母子通園施設の誕生の歴史を振り返ると、孤立しがちな母親たちが自主的に集い、まず心の内をお互いに吐き合うところから出発したので、法的整備のない時期は「マザーズ・ホーム」と呼称されていた程。

（自分は50年程前にその集いに学生ボランティアとして出入りし、その出会いが重症児と係わり続ける今に繋がっている。）

自閉症児のある母親は、「最初に出会うプロによって、その親子の将来は決まる」とまで言い、また、ある自閉症児の父親は、「親は子どもの最良のサポーターに成り得るが、最悪の抑圧者にも成り得る」と言ってる。

書籍「自閉症の息子と共に…」の著者である明石洋子さんの「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。」の言葉を思い出す。

特に母親が明るく、元気に、前向きになって貰わないと、子どもが犠牲になりがち。

そのためには、母子通園施設のスタッフのみなさんが、明るく、元気に、前向きでないとね。

そのためのお手伝いなら、いつでもスタッフを元気・勇気づけに行きたい、(^o^)